

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Linkみいけ		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 9 月 22 日		～ 令和 7 年 10 月 23 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 9 月 22 日		～ 令和 7 年 10 月 11 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 10 月 28 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・異年齢児との交流、1階の就労継続支援B型の利用者との交流	・異年齢の子も同士が自然に関わる環境を整えており、年上の児童が年下の児童を思いやる姿が日常的に見られる。 ・年上児童が「お手伝い係」として、活動準備や片付け、年下児童のサポートを担当してもらい、責任感や自尊心の向上につながるよう取り組んでいる。	・年齢差を活かした活動を通じて、社会性や協調性の育成を目指す。 ・工作や調理などの活動を異年齢グループで行うことで、自然な助け合いや役割分担が生まれ、協調性が育まれるよう異年齢混合グループでの制作活動を取り入れていく。
2	・戸外活動、外出活動の取り組み	・身体活動の促進と健康づくりとして、近隣の公園や緑道にでかけ、戸外での運動遊び(遊具遊び、鬼ごっこ、ボール遊び、ウォーキングなど)を通じて、体力向上とストレス発散の機会を確保している。 ・長期休暇などに外出活動を多く取り入れ、さまざまなことを経験・体験できる機会を提供している。	・外出活動時に公共交通機関(図書館、博物館、買い物体験など)を利用する機会をより多く取り入れ、公共マナーや社会的ルール、金銭感覚の理解を促し、社会性・生活力の育成につなげていきたい。
3	・相談事業所、他事業所との連携	・法人内に障害児相談支援事業所があり、関係機関やサービス担当者会議等の会議も含め柔軟に連携が取れる。 さかい障がい児放課後連絡会を通して、他事業所との連携をとることができる。 ・他事業所と連携を取り、児童の「今」だけでなく、少し先を見据えた「今できる支援」を考えるようにしている。	・研修会や勉強会等に参加し、小・中学校等の卒業後の進路など将来の情報・知識を身につけ、将来の目標に向かい、今必要な支援プログラムを確立していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人材育成、スタッフのスキルアップ	・業務の都合や人員体制の関係で、外部研修や講習会への参加が十分に確保できず、研修参加の機会が限られている。 ・スタッフ間での支援技法やケースの共有が不十分の為、経験の蓄積に偏りがでてしまい、同じ支援を提供することが難しくなっている。	・スタッフの入れ替わり等が生じた際も、同じ支援を提供できるように勉強会や事例検討会を実施し、スタッフ間の知識共有を促進していきたい。 ・業務マニュアルやチェックリストの整備も必要であると思われる。
2	・生活空間の整備	・経年劣化もあり、壁紙がはがれ、汚れが目立ってきている。穴が開いている箇所もある。床にひいているマットは表面が剥がれてきている。	・修理・補修をし、できるだけ早く環境整備に努め、快適な生活空間を提供する。
3	・保護者、兄弟児への支援	・利用児童への支援が中心となっており、背景にある家庭全体の支援(兄弟児のケア、保護者の心理的負担軽減など)が十分でない。	・保護者との面談やSNSを使用している情報交換などを実施し、家庭のニーズを把握する機会を増やしていきたい。 ・保護者交流会や、家族も参加できるイベントを企画し、家族支援の充実を図っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Linkみいけ

公表日 令和7年10月31日

利用児童数

25名

回収数

19

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1		3	・土曜日の送迎中は、事業所への急な連絡が繋がりにくい。繋がるようにしてもらえると安心です。	・連絡手段として、事業所の固定電話、LINE、携帯電話2台を設定しています。事業所に繋がらない場合は、携帯電話へ連絡してもらおう、保護者様に周知するように努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1	1	2	・好きなものが近くにあるが、目隠しをするなどの工夫をしている。「近くにあっても、今は我慢する」などの次の目標に合わせて、整えてもらいたい。 ・階段は急ですが、職員さんも声かけ、見守りをしていてくれるようなのでありがたいです。	・子どもたちが自主的に活動できるよう指導訓練室等を構造化していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	18	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17			2		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18			1		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1		1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16			3		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16			3		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	4		9	・機会がなくてもよい。	・近隣の公園で遊んでいる時に、地域の子どもたちと一緒に遊ぶ機会があります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	4		8		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	18	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	9	4	5	・保護者交流は、現状で十分。これ以上の必要性は感じていない。 ・土曜日の利用児童同士が交流する時間が長いと思うので、どんな様子か知りたい。機会があれば、土曜日に保護者も参加できるイベントが年1回くらいあると嬉しい。	・保護者の方にも参加していただけるイベントを開催できるよう、計画していきます。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18		1				

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16			3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16			3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	1		1	・1年未満の利用なので、訓練等しているかわからない	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	2				
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	Linkみいけ	公表日 令和 7 年 10 月 31 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	・少人数のグループに分かれ、室内・戸外の活動を行っている。 ・発達支援室等、3部屋を使うことができるようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	・足りている。 ・人数だけでなく、利用児童の状況に応じて、職員数を増やしている。	・スタッフの休みが重なった際に、スタッフが足りないと感じる時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	・バリアフリーではないが、自立歩行可能な児童が多いので、問題ないと思います。 ・階段が多く、階段を登れる児童のみの受け入れ、しつないも車いすでは難しい。	・室内外に階段がある為、昇降時には必ずスタッフが付き添い見守り・介助を行う必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・空気清浄機を使用。衛生面に気を配り、感染予防に努めている。温度・湿度計を設置している。	・清掃は毎日行っているが、経年劣化の為、壁・床の汚れ・破れが目立ち、補修が必要となっている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・更衣、体調不良、気持ちが崩れ静かに過ごしたい時、集中し細かい作業や制作に取り組む時等に個別にて別室を使用している。	・各部屋が施錠の為、必要な時に児童だけで自由に入出入りすることはできない。スタッフによって、使用を認めるタイミングに違いがある為、共通理解が必要となっている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2 未回答1名	・常勤職員や幹部会議で行われていると思う。	・非常勤スタッフを含めたミーティングが少ない。支援やケースの話し合いが多いため、「業務改善」の為という意識は低いと思われる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	未回答1名	・「評価表」以外に連絡帳など日々のコミュニケーションを通して、保護者等の意向等を把握するように努めている。	・業務改善には至っていない。評価表によって「わからない」という回答へは、事業所の説明やアナウンスをしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・会議があり、話せる場がある。 ・月に1回、スタッフ会議を設定している。必要に応じて、個別での面談を行うようにしている。	・業務に対しての思い、意見等を聞き取った後、業務改善までにつなげることができていないことが多い。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4 未回答1名		・第三者による外部評価は行ってない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	・外部研修の情報を全スタッフに周知するようにしている。	・外部研修への参加ができるよう、研修の情報収集に努め、全スタッフのスキルアップにつなげていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2	・法人のホームページに公表している	・支援プログラムは作成しているが、適時見直しが必要と思われる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・契約時、進級時に保護者から聴き取り、フェイスシート、アセスメントを作成。ニーズの整理を行い、相談事業所からのサービス利用計画も参考に、支援目標等検討している。	・ニーズや課題に対しての分析が不十分と思われる。本児を含め、家族の環境なども把握し、将来につながる支援計画の作成に努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	・基本は、児童発達支援管理責任者が作成している。作成する際に、スタッフ間で話し合いを行っている。	・こどもの最善の利益を考慮した検討が不十分であり、主に保護者のニーズを基に支援計画を作成している。今後はより児童の思いやニーズの聞き取りができるよう面談方法等検討していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	2	・日々の児童の様子や状況など情報共有を行い、支援について話し合いをする際に、目標についてなどスタッフに説明を行っている。	・支援計画の共有が不十分の為、今後は支援目標・支援方法などを活動前に確認できる方法・手段を検討する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2 未回答1名	・日々の行動観察は実施している。 ・保護者より発達検査の結果等の情報提供があるので、実施されていると思う。	・発達検査等を用いたアセスメントをとることができるよう研修、勉強会へ参加していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	・「本人支援」の発達支援の目標を主とし、「家族支援」の項目は、相談するという内容で設定している。	・「地域支援・地域連携」や「移行支援」の項目が不十分になっている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・常勤スタッフで担当を決め、素案を作成し、会議・ミーティング等で、内容を検討し、立案している。	・全スタッフが立案するところから参加できるように検討していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	・年間を通しての活動プログラムは固定してきている。詳細な内容などで変化をつけるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・一日のスケジュールは、全体のものとなっている。その中で集団で行うもの、課題や制作、当番活動等個別活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・始まる前に、今日の流れ・注意事項を確認できている。 ・引継ぎ日誌を作成し、時間差出勤の職員も把握できるようにしている。	・毎朝のミーティングと定例会議以外にも、リアルタイムで連絡や情報を共有できるようにITの活用などを検討していきたい。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	・気づいた点は、すぐに常勤スタッフに報告し、共有できている。	・支援終了後または翌朝以降のミーティングだけでなく、当日勤務外のスタッフへも引き継ぎが出来るようITの活用などを検討したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	・全スタッフによって、活動の様子などをPCに入力し、記録している。	・今後も日々の支援の記録をとることを徹底し、複数の視点から、支援内容の検証・改善につなげていく。
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		・今後も定期的、必要に応じてモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	1		
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	・日々のおやつ、昼食購入時のメニュー選択などを通して行っている。	・自己選択できるための経験値を上げる活動等に取り組んでいく。自己決定を伝える手段（言葉以外）の検討が必要。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・主に、児童発達支援管理責任者が参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	未回答1名	・主に他放デイ事業所との連携を図るよう努めている。	・学校等、関係機関との連携の機会を得ることができていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・学校の予定等は、基本保護者に確認をしている。学校のホームページも利用し、情報を得るようにしている。	・今後も利用児童の学校と「情報共有」と「連絡調整」を可能な限り行っていく。児童の様子・状況等の情報も共有できるようにしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1 未回答1名	・保護者、相談員を通して行われていると思う。 ・「あいのと」を作成している方は、提出していただいている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1 未回答1名	・保護者、相談員を通して行われていると思う。 ・福祉サービス事業所から連絡をいただき、情報提供を行ったことがある。	・積極的に行うことができていない。相談員や福祉サービス事業所からの要請がある場合に対応している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1 未回答1名		・児童発達支援センターとの連携は取れていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	未回答1名	・近隣の公園で遊んだり、地域の催しに活動の中で参加している。 ・自治会の催しに参加できる時はできる限り参加している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2 未回答3名		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	・連絡帳や送迎時に様子を伝えたり、電話等で個別に連絡を行っている。	・今後も日々の児童の状況を保護者に伝え、発達（成長過程等）の状況や課題について共通理解・認識ができるように努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4 未回答2名	・研修の案内等、情報提供を行っている。	・家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）に取り組めるよう、スタッフが研修を受ける必要がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	・見学・体験時に支援内容、活動、設備等を説明し、契約の際に重要事項説明書を基に、利用者負担等について説明を行っている。	・支援プログラムについて、説明を行うことができていない。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	・契約時の聴き取り、面談、対面以外での聴き取り（調査票等）を実施している。	・児童の思いの聴き取りが難しい。日々の活動時に、話をしながら、聴き取るようにしているが、今後より良い聴き取り方法を検討する必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	未回答1名	・面談時に説明を行い、同意を得るようにしている。	・来所での面談が難しい方には、オンラインや電話での説明を行い、書面でのやり取りもできるような検討が必要がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・連絡帳、SNS・電話等で相談を受けている。可能な範囲で助言や情報提供を行い、必要に応じて面談の時間を設定することもある。	・相談に適切に応じ、必要な助言と支援が行えるよう努めていく。必要に応じて他機関へも相談できる体制を整えていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4 未回答1名		・保護者会等の開催や交流する機会を設けることができていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・窓口（苦情受付・解決責任者）を設置。事実確認後に関係者会議で対応等を検討。報告と対応策を提示して再発防止に努めている。	・今後も児童や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに迅速かつ適切に対応できるように努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	未回答1名	・SNSを使用し、活動やイベントの予定を保護者へ伝える。 ・個別にSNSを使用し活動の様子がわかる写真等をお渡している。	・法人ホームページのブログへの掲載ができていない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・契約時に「個人情報使用同意書」と「写真等の取り扱い」に関して、内容を説明・確認したうえで署名してもらっている。	・SNSを使用している保護者との連絡が多くなってきている為、より慎重に個人情報を取り扱う必要がある。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・50音表カード、絵カード、マカトンサインなどを使用している。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4 未回答1名		・事業所でのイベント実施や積極的な地域住民を招待する企画を行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・火災、地震避難訓練は、利用児童・スタッフが参加し実施している。	・事故防止、防犯マニュアルの訓練の実施ができていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	未回答2名	・避難訓練や防災センターで体験や講習を受けている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・てんかん発作時の対応方法、個別の対応方法を事務所内に提示している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	未回答3名	・事前に保護者に確認している。 ・クッキングを行う際は、保護者へ使用する材料を伝え、都度アレルギーの確認を行う。	・調査表やアセスメントシートに、アレルギーの記載はあるが、すぐに確認できるような一覧表などを作成する必要があると思われる。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1 未回答1名	・日々のヒヤリハットから、「事故防止」や「リスクマネジメント」について、適時スタッフ間で情報共有を行っている。	・適切な訓練を行うことができていない
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	怪我、急病の場合における緊急連絡先とかかりつけ医は調査票に記載。連絡がなく通所されない場合は安否の確認を行っている。	安全確保に関して、安全計画について家族等との連携が図られるように児童・保護者へアナウンスしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	・日々の打ち合わせ等にて、迅速にヒヤリハットの報告、定例会議にて再発防止のための検証・対応策の検討を行っている。	ヒヤリハットの振り返り（内容と集計）など、年間総括をし、データをとり、分析、勉強会を行っていくよう努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1	・年数回、内部研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			・身体拘束を行わず支援できるよう、事例等を踏まえ身体拘束についての研修等を行っていききたい。